

WWFとトヨタ自動車の グローバル・コーポレート パートナーシップ

2016年7月20日
WWF

第 1 部

WWFとトヨタ自動車のグローバルコーポレート
パートナーシップについて

第 2 部

「生きているアジアの森プロジェクト」について



WWFとは？

WWF (世界自然保護基金)は、
世界100か国以上で活動する最大規模の
自然保護団体です。

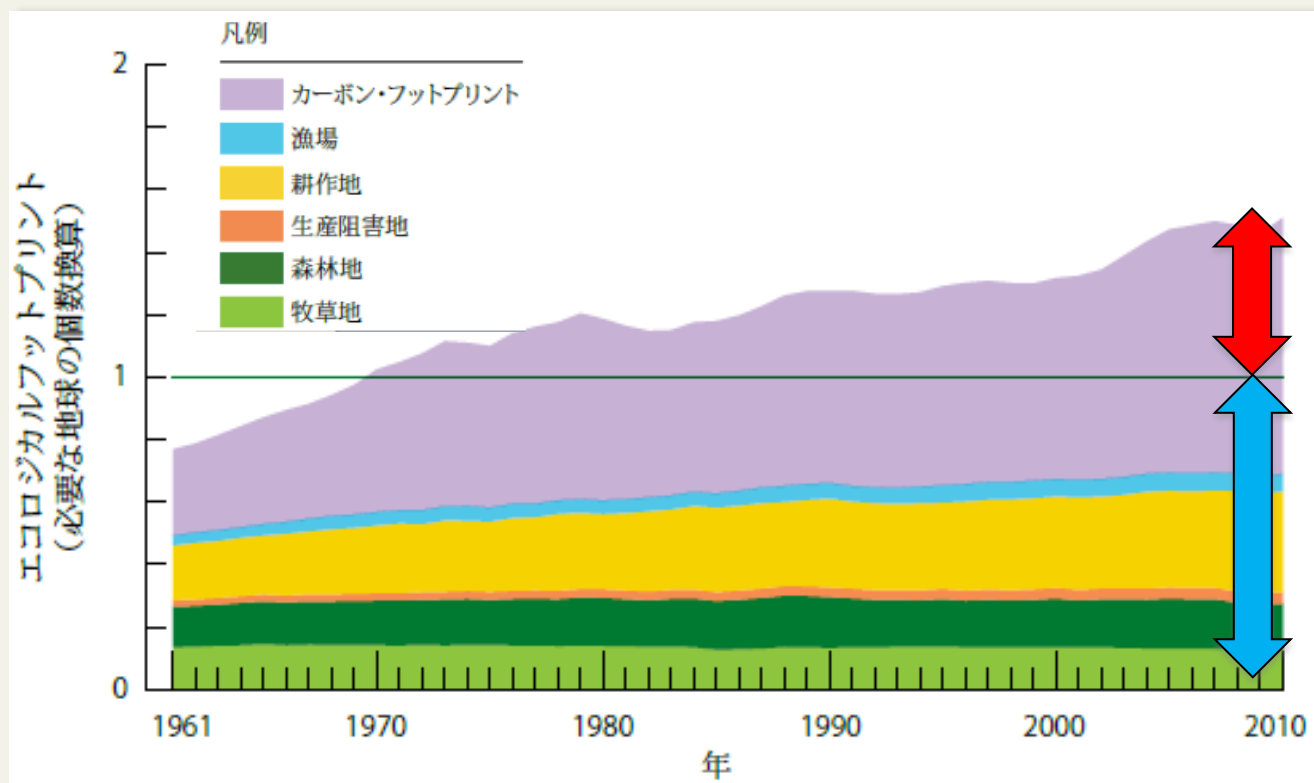
WWFのミッション：

「地球環境の悪化を食い止め、
人類が自然と調和して生きる未来を築く」



グローバルな持続可能性の現状

- ・ 1年で地球1.5個分の生態系サービスを利用
- ・ 最大の負荷=カーボンフットプリント(53%)
- ・ 地球の再生能力・吸収力を超えた「**非**持続可能」な利用が、年々拡大している

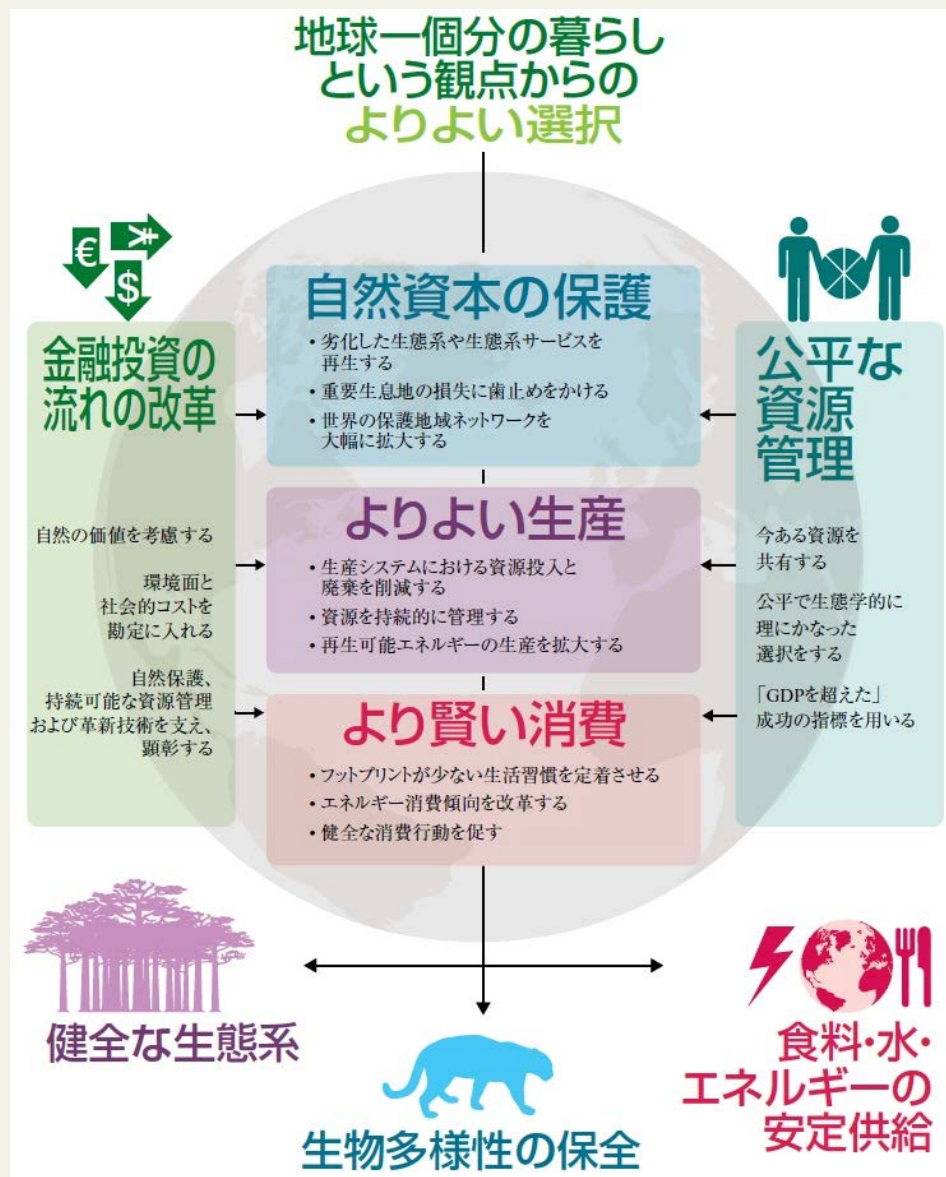




WWFが提唱する、持続可能な社会実現のビジョン

■ 現在の非持続可能な利用を、生産の仕方、賢い消費を通じて、持続可能な利用をする社会へと変革する

■ これらの「よりよい選択」により生物多様性と生態系を保全し食料・水・エネルギーの安定供給に貢献する





WWFと企業の コーポレート・パートナーシップとは

3つの活動を組み合わせ、人と自然が共存する持続可能な社会の実現を目指す

- 1. 持続可能な企業活動の推進**
- 2. 広報と意識向上活動**
- 3. 社会貢献活動**

グローバルなコーポレート・パートナーシップを結んでいる件数
全世界で約30社（2015年末現在）



WWFとトヨタのグローバル・ コーポレート・パートナーシップとは



人と自然が共存する持続可能な社会の実現を目指して

- WWFの「生きているアジアの森プロジェクト」にトヨタの御支援を頂く
- 2050年脱炭素社会の実現を目指し、WWFとトヨタは継続的に協働する

自動車業界では、**トヨタが世界初**
日本企業としても、**トヨタが日本初**



アジアでの森林保全活動ー現場と日本の関係



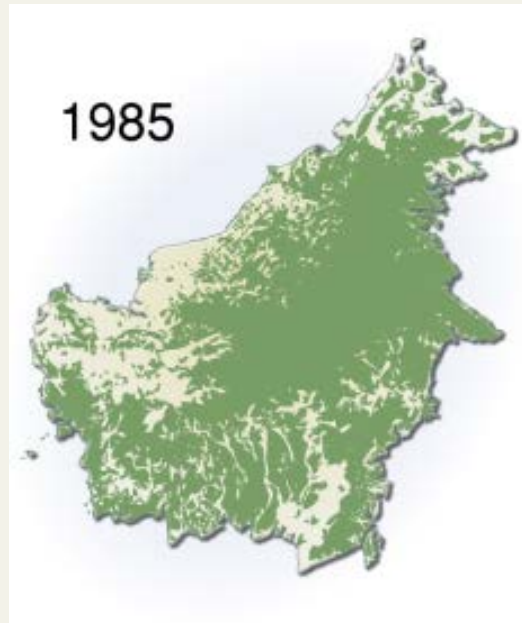
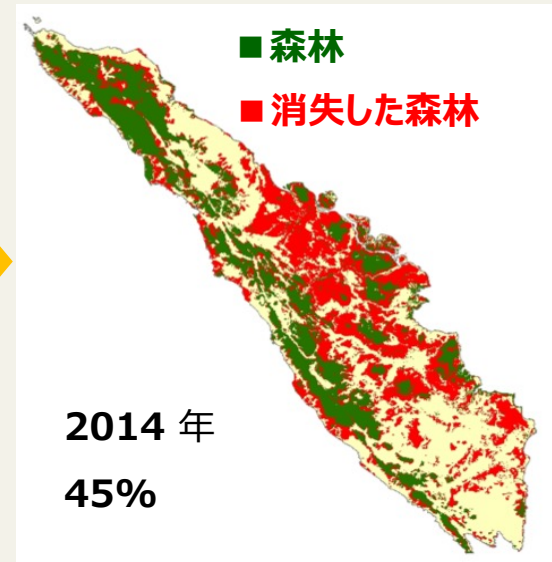
<スマトラ・ボルネオ・メコンから>

- ・**木材**（建材・家具、バイオ燃料等）
- ・**紙原料・紙製品**（コピー用紙・家庭紙等）
- ・**パーム油**、バイオ燃料等
- ・**天然ゴム**などを原料・加工品として輸入

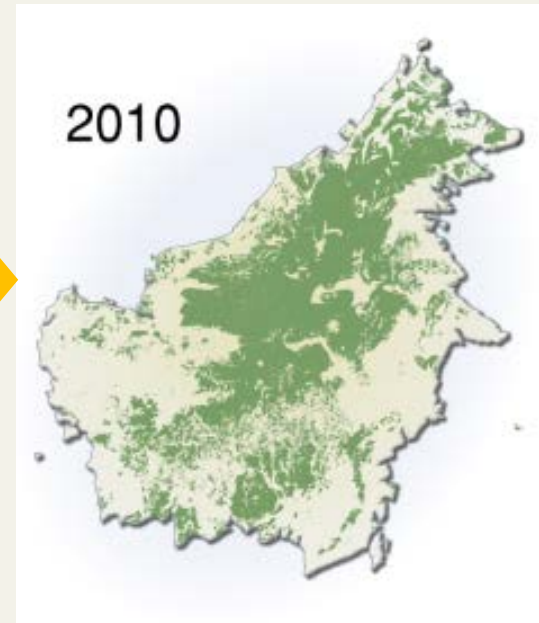
森林の減少（スマトラ・ボルネオ）



30年間で
約半減



25年間で
約1/3減



活動地域（スマトラ／ボルネオ）



スマトラ

- ① テッソ・ニロ国立公園
- ② ブキ・バリサン・セラタン国立公園



天然ゴム



パーム油



紙・パルプ

ボルネオ

- ③ 北カリマンタン
- ④ 東カリマンタン
- ⑤ 西カリマンタン



木材



紙・パルプ



天然ゴム



パーム油

アジアの森林で起きていること

① 森と生き物の課題

パトロールや生態調査などの、森と生き物を直接的に守る活動

絶滅危惧種の数が減少

密猟者の森への侵入

野生生物の生息地の減少

天然ゴムの持続可能性に関する国際基準の推進や、産品の生産、調達、消費を持続可能なものに改善するための活動

② 地域社会の課題

地域社会の安全・生計の悪化

森林減少で収益損失

野生生物が村落に侵入

③ 産品・市場の課題

農園・植林の不適切な管理

更なる森林の減少・劣化

先住民族の権利侵害

**森林伐採と
農園・植林開発**

エコツアーや有機農業の展開など、森林や生物多様性保全が地域の利益となるための活動

地域住民の生活と生計

海外からの一次産品需要

根底にあるニーズ

保全活動計画① 森と生き物を守る

自動撮影カメラが捉えたスマトラ・トラ



森林の再生



- 特殊なカメラを使い、ゾウ、トラ、サイといった**絶滅危惧動物の正確な生息地を調査し、行政による保全計画の向上を支援する**
- 野生生物の**密猟防止のためのパトロール**を当局とともに実施する
- 過去に違法伐採された地域で**森林再生**を行い、再度の不法侵入を防止する

保全活動計画② 森と共存する地域社会を支える

ピグミーエレファントと呼ばれる
世界最小のゾウ、ボルネオゾウ

小学校での環境教育



- 国立公園周辺における持続可能な生計確立の事例（**天然ハチミツ生産、エコツアー、有機農業、再生可能エネルギーの普及**など）
- すみかを失って人里に出てきた野生ゾウに対し、**ゾウ使いの訓練を受けた地域住民が衝突を回避**する
- 小中学校の先生に環境教育のノウハウを指導し、**継続的な環境教育**を行う

保全活動計画③ 天然ゴムなどの産品を通じた活動



天然ゴム生産の様子



FSC認証の普及啓発

- 天然ゴムの持続可能性に関する国際基準を策定するためにマルチステークホルダーとの協議を推進する。特に日本の利害関係者との対話と調整を行う
- 将来の天然ゴムの需要増が新たな森林破壊を引き起こさないよう好事例を作る
- 適切に生産された原材料・商品を選んで買う「持続可能な調達」を普及させる
 - 木材、紙、パーム油、天然ゴムを扱う企業への調達基準策定等の働きかけ

将来の計画

- メコン地域（カンボジア、ラオス、ミャンマー、タイ、ベトナムにまたがる地域）もインドネシアと同様の課題を抱えている
- 資源需要が増加すれば、無秩序な開発による自然林の劣化・破壊が懸念される



違法伐採が疑われる木材を運ぶ少年



地域の持続可能な森林資源を利用した手工芸

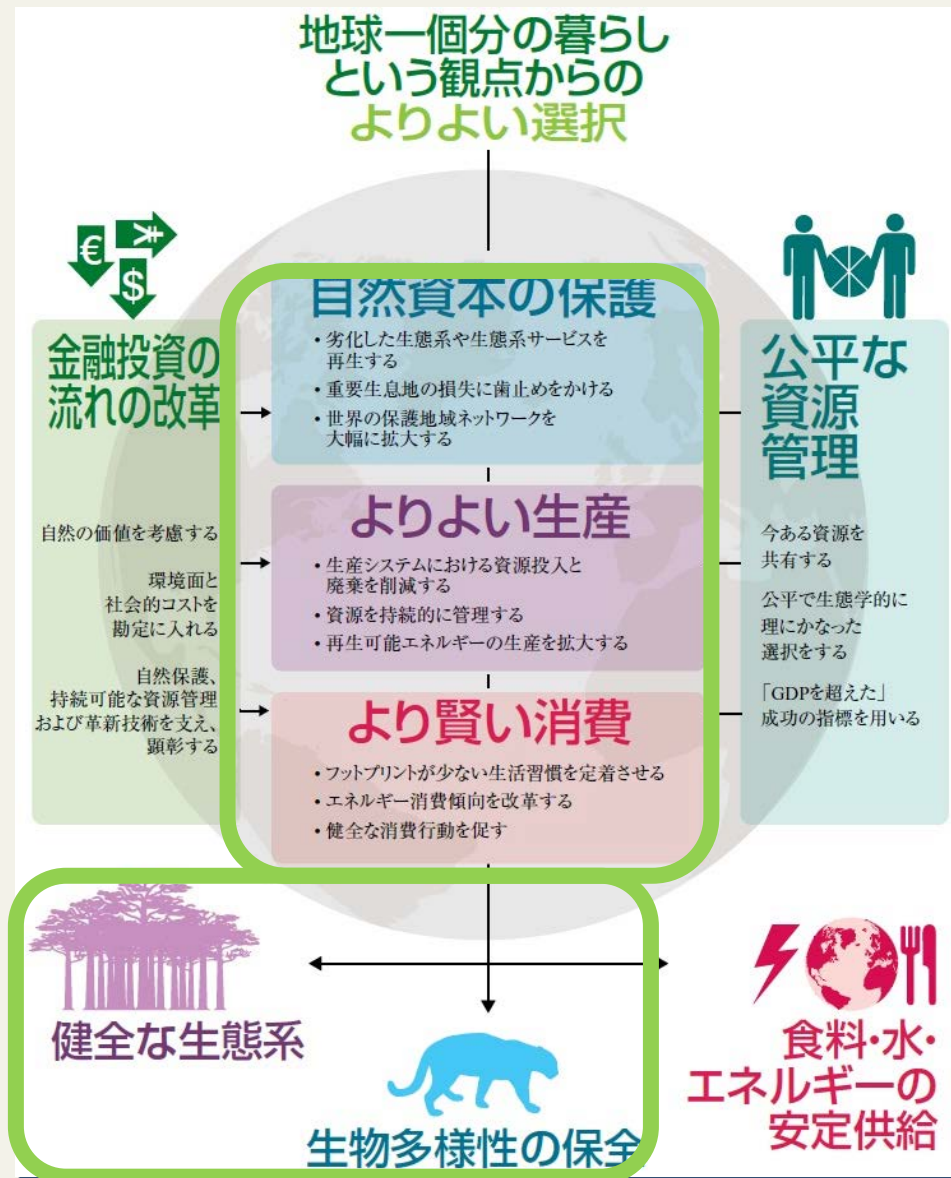
⇒ 3年後から、メコン地域でも活動開始を目指す

WWFが提唱する持続可能な社会実現のビジョン



生きているアジア
の森プロジェクト
の実施

2050年脱炭素社会
の実現





ご清聴ありがとうございました
